

さつき松原遊歩道

さつき松原遊歩道は、宗像の海岸沿いにある「さつき松原」の一部を通る、舗装された歩道です。この遊歩道は、北斗の水くみ海浜公園の近くから始まっており、長さは約 1.5km あります。この歩道からは、大島と地島を見ることができます。

晴れた日には、約 60km 離れた沖合に沖ノ島を見ることができます。沖ノ島は聖なる場所であり、訪れることはできません。

ここにはじめて松の木が植えられたのは 400 年以上前です。17 世紀初めに筑前（現在の福岡県の一部）を支配していた黒田長政（1568～1623 年）の指示の下で松の木が植えられました。この松原は、彼が海岸線を浸食から守るためにこの地域に植えた 8 つの松原のうち最初のものでした。現在の松の木のほとんどは、樹齢 200 年ほどのものです。地域の人々は、この松原が残り続けるよう、新しい松の苗木を植えています。さつき松原は、鐘崎と神湊の間の海岸に沿って 5.5km にわたっています。

さつき松原沿いには自転車道があります。自転車道は、「道の駅むなかた」から始まり、宗像一帯の主な見どころを巡ります。「道の駅むなかた」は、さつき松原遊歩道から歩いて数分の休憩施設です。さつき松原前の浜辺は、夏には人気のある海水浴場になります。